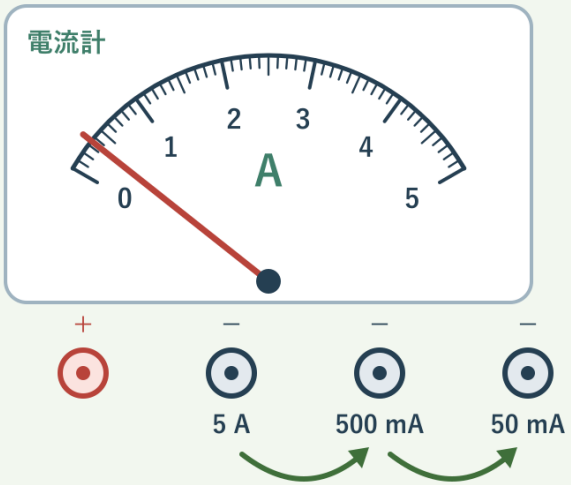
電流計・電圧計の端子の選び方と目盛りの読み方

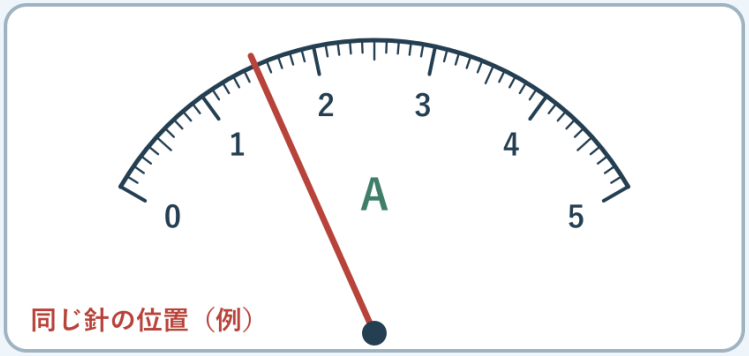
電流の大きさが分からないとき、どの－端子から使い、目盛りをどう読むか

① はじめは大きい端子から



1. まず、いちばん大きい 5 A につなぐ
2. 針の振れが小さければ、500 mA へ
3. それでも小さければ、50 mA へ

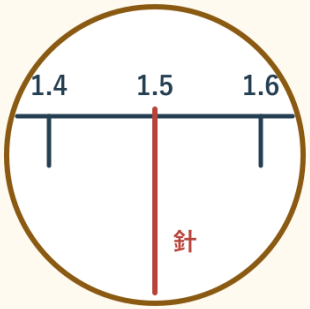
② つないだ端子で、読み方が変わる



5 A 端子	「5」＝5 A、1目盛り 0.1 A	1.50 A
500 mA 端子	「5」＝500 mA、1目盛り 10 mA	150 mA
50 mA 端子	「5」＝50 mA、1目盛り 1 mA	15.0 mA

③ 10分の1まで読む

5 A 端子の例を拡大



最小目盛り（0.1 A）の10分の1の位まで、目分量で読む。線にちょうど重なるときは「0」を付けて 1.50 A と書く。

④ 電圧計も同じ考え方

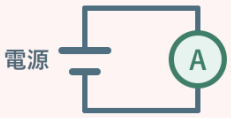


はじめは 300 V の端子から使い、振れが小さければ 15 V・3 V へ。はかる部分に並列につなぐ。

よくない例



針が左に振れた→＋と－が逆。スイッチを切り、つなぎ直す。



電流計だけを電源につなぐ → 大きな電流が流れ、こわれる。豆電球などと直列につなぐ。

気をつけること

つなぐ・つなぎかえるときは、スイッチを切っておく。
針が振り切れたら、すぐにスイッチを切る。電源の電圧は先生の指示で決める。

※ 模式図。端子の並びや目盛りの数字は器具によって違い、デジタル表示の器具もある。完全な操作手順ではない。